

地域 中小ビジネス

福田刃物工業は、リサイクル専用機向けの刃物製造に力を入れている。環境保護の高まりから国内外でリサイクルなどが広がり、1千種類以上ある同刃物の需要は高まっている。今期（2010年12月期）、同関連製品の売り上げは前期比倍増の3億円と伸びた。今後は、中国やドイツなど海外市場を深耕し、収益の基盤を固めたい考えだ。

（関）

創業は1898年。創業時はボケットナイフメーカーだったが、1922年に国内で初めて紙を断裁する金丁の製造に着手。その後、專業メーカーとして成長し、工業用機械刃物の一環としてきた。創業期に



福田英博社長

福田刃物工業

何でも粉碎資源再生



需要が伸びているリサイクル専用機向けの刃物

独自熱処理で高耐久 鉄と鋼 溶解せず接合

「トボトル」や「プラスチック、ゴムなどを粉碎する粉砕・破砕刃のニーズが高まっております。環境先進国であるドイツなど、海外からの引き合いも増えています。」
 同社の強みは、高度な熱処理技術。金属を接合する溶接の一種である「ろう付け」を得ることで、銀合金や銅を溶解し、鉄と鋼を接合。部材同士が溶けあらず、溶かすことなく、自立する技術が要で、サイクル専用機向けのどんなに堅い素材を粉砕しても負けない刃を

実現。高い耐久性を生んでいる。
 今後は、さらなる市場を開拓するため、海外事業を本格化する。まずは、9月から12月に中国・上海で開催される中国国際工業博覧会に出展。リサイクル向けの粉砕刃などを重点を合意に並べ、旺盛な需要を取り込む目標とす。

「日本国内で優位に立つ製品が、中国市場にどうまで受け入れられるか探りたい」（福田英博社長）考えで、開業期間中には経営企業数社とも商談する計画。中国で自社製品をアピールし、新たな販路構築に結びつける。

社内で産田を構成しての商標でも親しまれてきたことから、「環境」近年、環境への関心刃物が堅固に推移。ベ

〈メモ〉 本社＝関市小原名363▽電話＝0575・28・5888▽創業＝1898年▽年商＝8億5千万円（2010年12月期見込み）